

プログラム	「高齢者が生月で元気に暮らしていくために」		
実施者	平戸市社会福祉協議会、平戸市立生月小学校 4 年生		
関係機関	生月町まちづくり運営協議会、いきいきサロン御崎、平戸市役所高齢者支援班、包括支援センター		
実施期間	令和 7 年 7 月 1 日 ~ 令和 8 年 2 月 17 日	科目等	総合的な学習の時間 (コマ ※1 コマ 45 分間)
事例の概要	①高齢者疑似体験 ②認知症サポーター養成講座 ③いきいきサロン参加者との交流（喫茶店きないよ） ④グランドゴルフ交流 ⑤学習発表会での発表 ⑥キャリア教育	事業費	特になし
実施した背景	生月地区では高齢化率が 50%となり、地域住民の多くを占める高齢者の方々が「ふだんのくらしのしあわせ」のために児童が我が事として「自分たちができることは、何か」考えることができるきっかけやふれあいの場を提供するため。	目的の達成状況	地域の高齢者に関心を持つことができるようになったことが振り返りでも見受かられた。また、学習発表会での発表を行うことにより、より一層高齢者への思いを深めることにつながった。
発案者	<input checked="" type="checkbox"/> 社協 <input checked="" type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 行政 <input type="checkbox"/> 社会福祉法人 <input type="checkbox"/> その他 (_____)	発案時期	令和 7 年 4 月頃
関係者	社協 1人 学校 1人 行政 2人 施設 ___人 その他(まち協) 1人 (サロン団体代表) 1人	協議時期	令和 7 年 8 月頃
導入準備	① 期間 令和 7 年 4 月 ~ 令和 7 年 8 月 ② 関わった人 6 人 <input checked="" type="checkbox"/> 社協 <input checked="" type="checkbox"/> 学校 <input checked="" type="checkbox"/> 行政 <input type="checkbox"/> 施設 <input checked="" type="checkbox"/> その他(まち協、サロン団体)		
導入	高齢者疑似体験の前に平戸市の高齢者の状況を説明。また、認知症サポーター講座では、認知症についてだけではなく、認知症の方々のための制度や事業について説明を行った。		
体験(概要)	①高齢者疑似体験：高齢者の身体の変化・心の変化について考え、理解する。 ②認知症サポーター講座：認知症について、認知症の方への対応について寸劇を通して対応方法を学ぶ ③グランドゴルフ交流：地域の介護予防に取り組む元気な高齢者とグランドゴルフを通じて交流 ④キャリア教育：福祉の仕事カード合わせ、リフレーミングゲーム		
実践(概要)	①いきいきサロン参加者との交流：まちづくり協議会と協働で行う「喫茶店きないよ」において高齢者疑似体験や認知症サポーター講座で学んだことを活かし、交流プログラムを児童が自ら企画運営を行う。 ②学習発表会において今回学んだことについて発表を行う。		

所感 (概要)	<p> 高齢化率 50%となった今、高齢者理解は地域で暮らす一員としてはかかせないものとなっている状況である。児童に自分たちが暮らしている「地域」に目を向けて、興味を持ってもらうかといったことを重点課題と考え、より具体的な話や、地域を支える方たちも協働で事業の実施を行った。今まで学んできた内容を学習発表会でアウトプットすることで、より、地域で暮らす高齢者への思いが強くなったように感じた。 </p>
リンク	

生月小学校とともに PG（導入準備）＜平戸市社会福祉協議会＞

① 期間 令和 7 年 4 月 ～ 令和 7 年 9 月

② 関わった人 6 人 社協 学校 行政 施設
 その他（まちづくり協議会、いきいきサロン団体）

③ 入準備内容・スケジュール

日程	コマ数	内容
R7.4	なし	小学校担任の先生と打ち合わせを行う。ねらいや思いを十分に聞き取り、提供できるプログラムについて提案を行い、一旦学校で検討していただく。その後、学校でプログラムの選択を決定。
R7.8	なし	認知症サポーター講座において市役所と日程調整と内容について相談
R7.9	なし	喫茶店「きないよ」の交流にあたり、まちづくり協議会とサロン団体と日程や内容の調整を行う。

※詳細については、都度連絡し学校と各団体等と調整を行った。

④ 実施計画

実施月	内容	ねらい	協力団体等
R7.7 月 (2 コマ)	体験① 高齢者疑似体験	高齢者の身体や心の変化について考える	平戸市社協 2 名 派遣
R7.9 月 (1 コマ)	体験② 認知症サポーター講座	認知症の理解と対応方法を学ぶとともに高齢者が安心して地域で暮らしていくためにどのような支援があるかについて知る。	平戸市役所 2 名 平戸市社協 1 名 派遣
R7.1 月 (2 コマ)	実践① 高齢者との交流	高齢者疑似体験や認知症サポーター講座で学んだことを活かす、児童自ら、プロ	生月町まちづくり協議会 いきいきサロン御崎

		グラムの企画運営を行う。	
R7.12月 (2コマ)	体験③ グランドゴルフ交流	地域で介護予防に努め、元気に暮らす高齢者について理解する	グランドゴルフ協会
R8.1月	学習発表会での発表	児童、保護者、学校、関係者へ報告を行い、地域全体への福祉教育を推進する。	
R8.2月 (2コマ)	体験④ キャリア教育	福祉のしごとについて楽しく学ぶとともに人材育成につなげる	

生月小学校とともに PG（体験）＜平戸市社会福祉協議会＞

体験①高齢者疑似体体験

①日時 令和 7 年 7 月 1 日

②場所 生月小学校

③関わった人 2人

（ 社協 学校 行政 施設

その他（ _____ ） ）

④活用した機材・準備物

・ 高齢者疑似体験セット ・ 新聞 ・ 申込書類 ・ 小銭 ・ 財布 ・ カッターシャツ ・ 資料 ・ 振り返りシート

⑤内容 高齢者疑似体験セットを装着し、階段の上り下り、指定したテレビ欄の内容探し、申込書類への記入、レジでの小銭の出し入れ、衣服のボタンの脱ぎ着などの体験

体験②認知症サポーター講座

①日時 令和 7 年 9 月 26 日

②場所 生月小学校

③関わった人 3人

（ 社協 学校 行政 施設

その他（ _____ ） ）

④活用した機材・準備物

・ パソコン ・ スクリーン ・ 資料 ・ 寸劇の衣装

⑤内容 市役所の認知症地域支援推進員と職員を講師としてお招きし、認知症についてと対応方法を寸劇を通して学ぶとともに認知症を支援するための市役所や社協の事業について説明を行った。

体験③グランドゴルフ交流会

①日時 令和 7 年 12 月 5 日

②場所 生月小学校

③関わった人 12人

(社協 学校 行政 施設
 その他 (グランドゴルフ協会会員))

④活用した機材・準備物

・ グランドゴルフセット

⑤内容 高齢者の生きがいづくりなど介護予防としても効果的で高齢者の間で人気のスポーツ「グランドゴルフ」を行い、元気な高齢者と交流を行う。

体験④キャリア教育 (ふくしの仕事について)

①日時 令和 8 年 2 月 17 日

②場所 生月小学校

③関わった人 1 人

(社協 学校 行政 施設

その他 (_____))

④活用した機材・準備物

・ ふくしの仕事カード ・ リフレーミング言葉合わせカード

⑤内容 ふくしの仕事について理解を深めるため、福祉の仕事資格と仕事内容、どのような所で働いているかの3つのカードを合わせていくゲームをグループで行う。また福祉の仕事をする上で大切となる考え方の1つとしてリフレーミングの技法について言葉合わせゲームをグループで行った。

生月小学校ともとも PG (実践) <平戸市社会福祉協議会>

実践①いきいきサロン高齢者との交流

①日時 令和7年10月22日

②場所 御崎交流センター

③関わった人 19人

(社協 学校 行政 施設

その他 (まちづくり運営協議会、サロン御崎参加者、ボランティア))

④活用した機材・準備物

お茶菓子・レクリエーション用品

⑤内容

生月町まちづくり運営協議会が主催する喫茶店「きないよ」に参加したサロン参加者とともに児童が今まで学習したことを活かして自ら企画したプログラムを通して交流を行った。

実践②学習発表会での報告

①日時 令和8年1月29日

②場所 生月小学校

③関わった人 __人

(社協 学校 行政 施設

その他 (保護者、学校関係者))

④活用した機材・準備物

高齢者疑似体験セット等

⑤内容

「高齢者」について学習した内容について学習発表会で報告を行った。

生月小学校とともに PG（所感等） <平戸市社会福祉協議会>

1、所感

生月地区では、高齢化率 50%となった今、高齢者理解は地域で暮らす一員としてはかかせないものとなっている状況である。児童に自分たちが暮らしている「地域」に目を向けて、興味を持ってもらうかといったことを重点課題と考え、より具体的な話や、日頃地域を支えている方々たちと協働で事業の実施を行った。振り返りシートからは、学習や実践を通して高齢者への理解を踏まえ「今、自分たちができること」についてそれぞれの考えについて表現できていた。また今まで学んできた内容を学習発表会でアウトプットすることで、より、地域で暮らす高齢者への思いが強くなったように感じた。

2、今後の取り組みについて

総合学習の長年課題であるのは、継続性も問題です。学校での貴重な時間を要しての総合学習は、その年度で終了してしまうことがほとんどで、次の年度で引き続き総合学習を行うことは稀です。そこで、昨年度は学習終了後の春休みに一人暮らしの高齢者のお食事会にボランティア募集を行ったところ、数名が参加し、ボランティアの方々と共に活動を行い、地域の高齢者を支えるボランティアの思いを知るとともに、自分たちも一人暮らしの高齢者の役に立ったという充実感が感じられたようでした。今後も本会が実施する事業等に学校活動以外でも気軽に小学生がボランティア活動を行う機会を設け、地域で生きる一人として自分にできることは何か考え、関心を持ち、行動できる人材を育成することができればと考えます。